

都会の中の秘境路線

鶴見線

2021 21-7 Y・Y

①～鶴見線とは～

鶴見線とは鶴見から扇町までの短いローカル線です。しかし田舎にあるのではなく日本でも有数の大都市、「横浜」に路線があります。鶴見線が走るところは京浜工業地帯の骨格を形成する工場が並んでおり、日中は利用客が少ないです。

鶴見線の特徴として、鶴見駅以外の駅はすべて無人駅であること。昭和時代の面影を残す駅があること。日本で一番海に近い駅があることがあげられる。

そのことから、鉄道ファンだけでなく、一般人でも楽しめる見どころがあります。鶴見線が走っている海岸部は、「浅野総一郎」によって埋め立て形成された土地です。

②～見どころ紹介～

この路線の駅は二つの支線を含め 13 駅で構成され、全駅で 9.7km の短い路線ですが、電車の本数が少ないので、全駅を制覇する人はあまり多くありません。

鶴見線 路線図



記事参照：[鶴見みどころガイドの会](#)

これは鶴見線の路線図です。こちらにある海芝浦駅は、「駅から降りられない駅」として有名です



↑上の写真は海芝浦駅の写真。





上の二つの写真は海芝浦駅から見える工業地帯です。実は海芝浦駅から改札に行けないのはある工場の敷地内にあるのが原因です。ある工場というのは、大

手電機メーカーの「東芝」です。だから東芝の職員しか改札には出られません。また、海芝浦には公園が併設されており、その公園には一般人でも立ち入れます。



↑日中に行ったので僕ら以外ほぼ人いなかった。

～ほかの駅の見どころポイント～

1 鶴見駅

京浜東北線と、鶴見線が止まる駅です。鶴見線のホームは駅構内の 2 階部分にあります。また、おなじ JR ですが、改札を通らなきゃ鶴見線ホームには行けません。近くには「本山駅」という廃駅があります。

2 国道

鶴見線と京浜国道(国道 15 号)との交点になることから国道駅と名付けられました。開業当時は高架下にデパートがあり駅ビルのはしりとなった場所です。駅舎が昔のままで昭和にタイムスリップした気分を感じられます。映画の撮影に使われたこともありました。

3 鶴見小野駅

この駅は鶴見線沿線でも比較的栄えている駅です。近くには住宅街、最先端の研究施設、横浜サイエンスフロンティア高校もあります。駅のホームは相対式ですが、向かいホームに行くために踏切を渡らなければいけない珍しいホームです。

4 弁天橋

鶴見線の車庫があります。線路に隣接して南極観測船「ふじ」初代しらせが誕生した造船所もあります。近くには沖縄の物産店があります。

5 浅野駅

海芝浦支線との分岐点です。三角州型のホームがあります。近くの入船公園は、さまざまなフェスティバルの会場になるところです。

6 安善駅

米軍の鶴見貯油施設があります。

安善駅と浅野駅の駅間距離はとても短く、**JR**でも指折りの区間です。

7 武蔵白石駅

かつて海水浴場前という夏季限定駅があり、東洋一といわれた扇島浴場への客に利用されていました。

富士電機の発祥の地です。

8 浜川崎駅

南武支線の乗換駅です、改札はそれぞれ別の場所にあるので一度改札口を出てから乗り換えをします。

日本銅管発祥の地でもあります。敷地内には白井元治郎の銅像や、ドイツから指導に来たゲ氏と職工長の宿舎、「アウマンの家」の復元家屋が立っています。

9 昭和駅

昭和電工の最寄り駅だったことから命名されています。近くには、浅野総一郎が設立した浅野セメントをルーツとするデイ・シイ川崎工場があります。

10 扇町駅

JR 東日本の川崎火力発電所があります。

昭和電工川崎工場も本事務所は登録有形文化財になっております。扇町駅は川崎市ですが、特定地間の乗車券では横浜市内扱いになっています。

11 新芝浦駅

当時東京に「芝浦駅」があったので新芝浦になりました東側のホームは運河に面しております。

12 大川駅

武蔵白石～大川間の大川支線の終点です。列車の本数が極めて少なく、神奈川県内で一番少ないです。

あまりにも少ないため大川駅には最寄りのバス停までの案内図と、徒歩で武蔵白石駅まで行く案内図があります。

また、近くには鶴見火力発電所の石碑があります。

③～終わりに～

ここまでご覧いただきありがとうございます！

鶴見線は首都圏からも比較的近いところにある秘境路線なので、ぜひ皆さん一度足を運んでみるのはどうでしょう？

あ、本数だけは気を付けて旅をしてくださいね～
(笑)

参考資料

→都会のローカル線鶴見線探訪

kanagawa-kankou.or.jp/?p=we-page-entry&spot=369516